

第2期座間市まち・ひと・しごと創生総合戦略
令和3年度評価報告書

令和4年3月

座間市企画財政部企画政策課

目次

1	第2期座間市まち・ひと・しごと創生総合戦略について.....	1
2	報告書作成の趣旨	1
3	人口動向	1
4	総括評価	3
5	基本目標ごとの評価	3
	評価の方法	3
	基本目標1 Z ずっと住みたくなるまちを目指して.....	4
	基本目標2 A あしたを創る地域産業の活性化を目指して.....	7
	基本目標3 M みらいを担う世代のすこやかな育成を目指して.....	9
	基本目標4 A あんぜん・安心な地域づくりを目指して.....	11
	付属資料.....	13

1 第2期座間市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

地方創生とは、平成26年に公布された「まち・ひと・しごと創生法」の目的の一つである、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持することの実現に向けた政策をいいます。

本市では、平成28年に「座間市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、令和元年度を目標年度として地方創生に資する取組を計画的かつ戦略的に推進してきました。この総合戦略は、人口減少克服と地方創生に資する取組を重点的に推進するために、総合計画や各分野の個別計画と整合させ、分野横断的に取り組む「戦略的ビジョン」と位置付けています。

その後、令和元年に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」を踏まえ、地方創生の充実、強化に向け、切れ目ない取組とするため、「第2期座間市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、令和6年度を目標年度として地方創生への取組を継続しています。

2 報告書作成の趣旨

地方創生の推進には、中長期的な視点で取り組む必要があるため、地域の課題や実情に応じたKPI（Key Performance Indicator＝重要業績評価指標）を設定するとともに、外部有識者の知見や市民の意見を活用しながら、データによる効果検証を行い、効果的かつ効率的なPDCAサイクルを実践することが重要です。

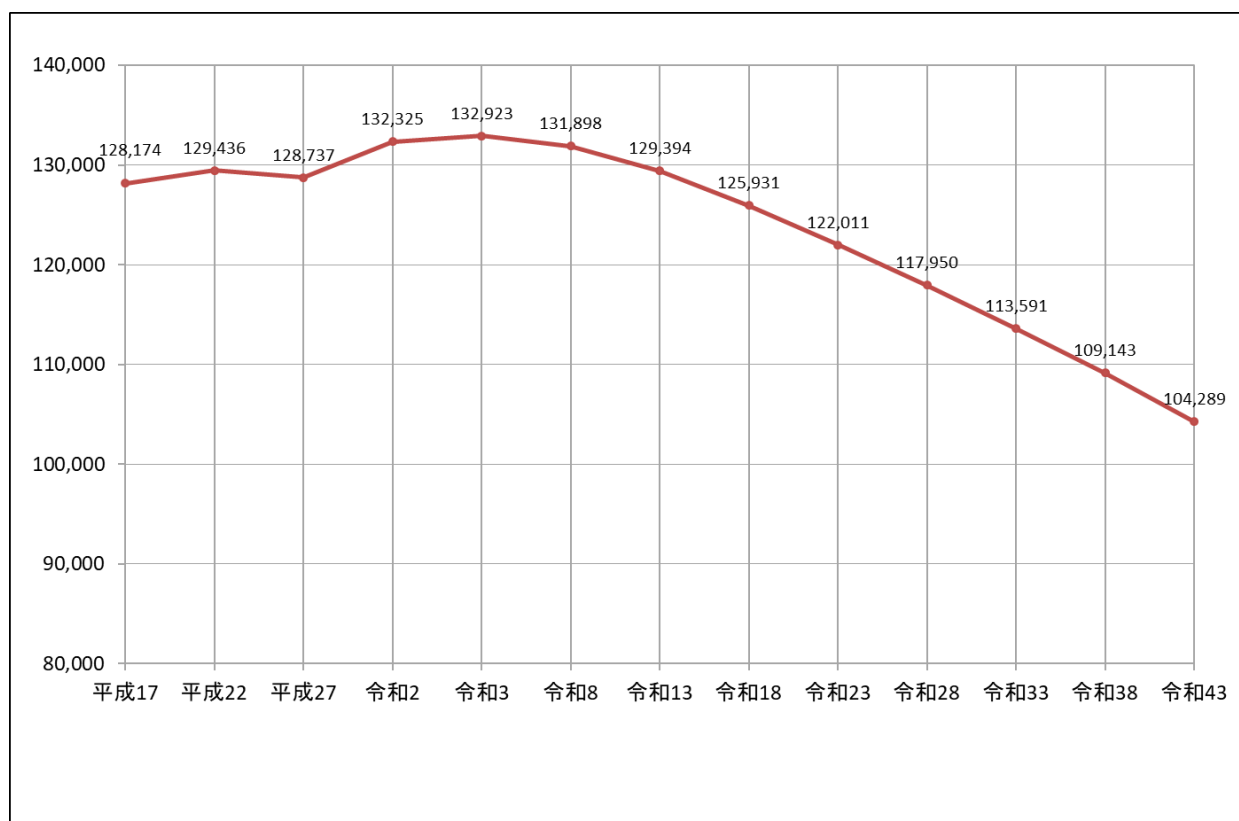
本市では、「第2期座間市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における取組を有識者会議や内部推進体制において点検、評価及び効果検証し、PDCAサイクルを構築しています。

本報告書は、急速に変化する社会経済情勢に対応した地方創生の充実、強化に向けた、本市の取組を点検、評価及び効果検証した結果を取りまとめたものです。

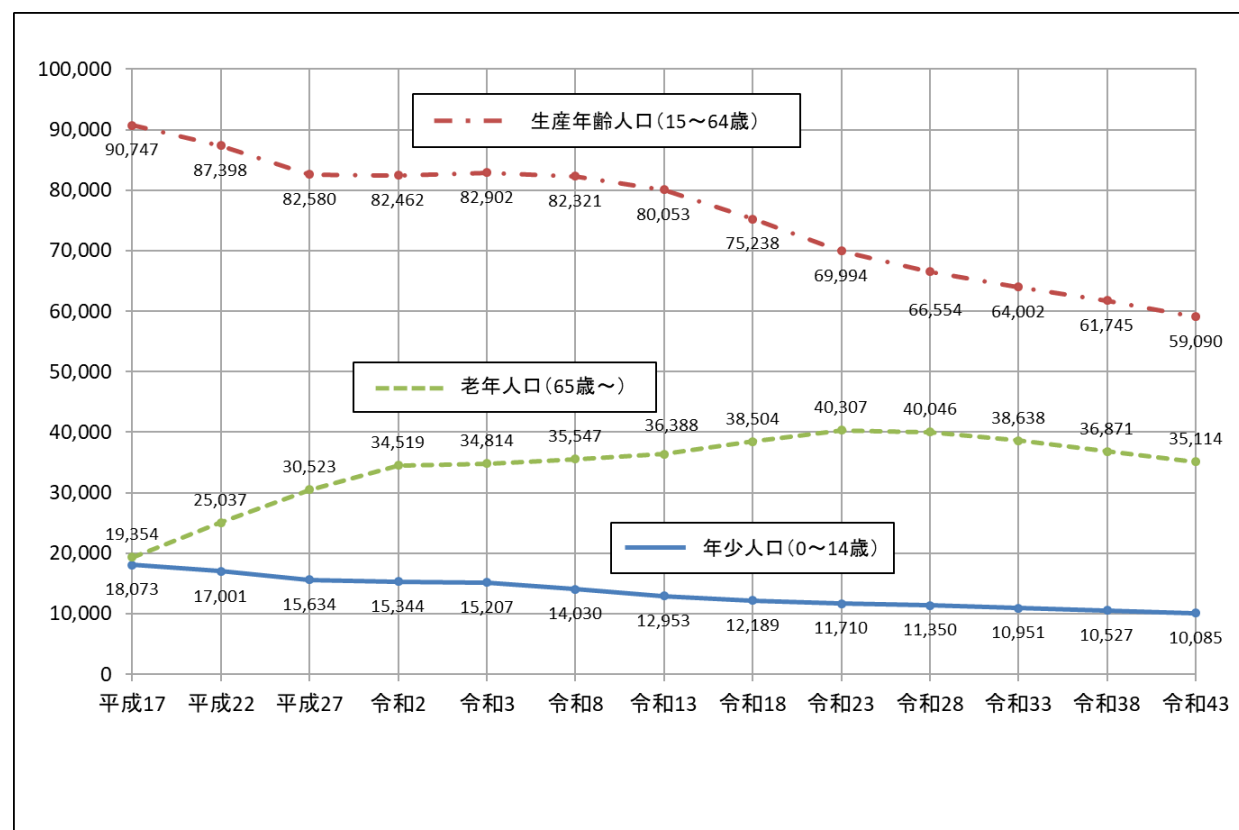
3 人口動向

平成28年に策定した「座間市人口ビジョン」では、本市の総人口は減少の一途をたどる推計でしたが、令和3年までは増加しています。しかし、令和3年までの推移を基に行った新たな推計では、令和4年以降は人口が減少し、徐々に減少幅が大きくなると見込んでいます。（図1参照）

また、年齢3区分別人口を見ると、近年の総人口に対し、年少人口は減少が続いていきます。生産年齢人口は令和4年まで微増ですが、令和5年以降は減少に転じると推計しています。しかし、老年人口は令和24年まで増加し、令和25年には総人口120,412人に対し、老年人口が40,369人となり、総人口の3人に1人が老年人口になると推計しています。



▲図1 座間市の総人口



▲図2 座間市の年齢3区分別人口

4 総括評価

本市では、総合戦略を「戦略的ビジョン」とし、人口減少克服と地方創生に資する取組を重点的に推進しています。

本市の総人口は、先述の通り令和3年まで増加してきました。令和3年10月1日現在は132,923人と令和2年10月1日現在の132,325人に対して、わずかながら増加しています。

本市の行政運営について、令和3年度及び令和4年度は、本市の最上位計画である総合計画に準じる「座間市市政運営指針」により行っています。

したがって、本総合戦略は、同指針の枠組みの範囲で地方創生の充実、強化に資する取組に特化した計画という性格を持っており、同指針で定めているまちづくり指標と本総合戦略の基本目標に定めているKPIは同じものとなっています。

本市は現在、令和5年度を計画期間の初年度とする第五次座間市総合計画ーざま未来プランー（以下「ざま未来プラン」という。）の策定作業を進めており、ざま未来プランには、これまでの地方創生の成果を適切に反映させることとしています。

また、ざま未来プランで掲げる目指すまちの姿の実現に向けて、重点的かつ横断的に進める取組と本総合戦略に基づく地方創生の取組は一体的なものとして整理することも可能と考えます。

いずれにしても、地方創生を効果的かつ効率的に進めるため、既存の手法にこだわらず、デジタル活用による課題解決や地域活性化など、多様な手法を取り入れた複合的な取組をしていくことが重要と考えます。

5 基本目標ごとの評価

評価の方法

基本目標は、KPIの評価と令和3年度の取組内容を総合的に判断し、評価しました。

なお、KPIは次の基準で達成状況を検証しました。

KPI 達成状況	評価
目標達成	A
目標達成に向け前進	B
目標達成に向け後退	C

基本目標 1 Z ずっと住みたくなるまちを目指して ～郷土愛の醸成と定住の促進～

湧水や自然、歴史、駅が多いまち（交通結節点が多いまち）といった本市の特性を活かしながら、郷土愛を育み、ずっと住みたくなるまちを目指します。

《基本施策》

- (1) 駅を中心とするネットワーク型のコンパクトなまちづくりの推進
- (2) ひまわりや湧水、自然、歴史、文化を活かした観光交流の促進
- (3) シティプロモーションの強化
- (4) 郷土愛を育む機会の充実

➤ 基本目標 1 の評価

令和 3 年 1 1 月 6 日に官民連携による地域活性化策の一環として座間駅前の屋外空間を活用した駅前広場「ざまにわ」がオープンしました。

本目標の基本施策である、駅周辺の機能強化が図られ、イベントスペースとしても活用できることから、観光交流の促進やシティプロモーションの強化が期待できます。

また、本市は市制施行 5 0 周年を迎え、その市民等主体事業や記念式典を通じて、郷土愛の醸成が進んだものと思われます。

5 0 周年式典で初披露となった市 P R 動画「L I F E i n Z A M A」は、都市と自然が調和したベッドタウンである、本市の特徴や魅力をストーリー仕立てで分かりやすく紹介しており、移住・定住という地方創生を推し進めるものです。

基本目標 1 では K P I を五つ設定しており、その達成状況は、目標達成が二つ、目標達成に向け後退が三つです。

以上のことを踏まえ、『やや遅れている』と評価します。

➤ K P I の評価

K P I	公共交通機関が発達し、市内、市外への移動が便利になってきていると思う市民の割合（市民アンケート）【％】		
基準数値	最新数値	目標数値	評価
54.3[H30]	52.2[R2]	59.8[R6]	C
<p>公共交通機関は着実に利便性が向上していると考えますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、外出自粛など日常生活に変化が起きたことから、最新数値は後退していると考えられます。本市が運行しているコミュニティバスは、運行ルートやダイヤを適宜見直し、持続可能な公共交通を実現しているところです。</p> <p>公共交通機関は、市民生活における移動手段として重要な役割を担っていますので、利便性の向上に努めます。</p>			

K P I	市民の地域に対する愛着が深まり、連帯意識が強まってきていると思う市民の割合（市民アンケート）【％】		
基準数値	最新数値	目標数値	評価
18.7[H30]	24.3[R2]	23.0[R6]	A
<p>震災を教訓とした地域コミュニティの重要性について認識度が高まったことが一定の評価に繋がったものと考えます。市民が地域に対して期待することは様々ですが、連帯意識を強化するためには、「共助」が欠かせないため、今後も、自治会活動や地域防災活動を支援します。</p>			

K P I	自然、歴史、文化を身近に感じるまちづくりが進められていると思う市民の割合（市民アンケート）【％】		
基準数値	最新数値	目標数値	評価
35.1[H30]	32.4[R2]	40.0[R6]	C
<p>日常生活で直接関わる機会が少ない歴史や文化などは、身近に感じづらい部分だと認識しています。一方で、自然、歴史、文化を身近に感じることは、まちの魅力向上にもつながることから、その機会をつくることに努めていきます。</p>			

K P I	ボランティア活動などを通じた青少年の社会参加が増えてきていると思う市民の割合（市民アンケート）【％】		
基準数値	最新数値	目標数値	評価
14.7[H30]	12.0[R2]	17.0[R6]	C
<p>本市では、青少年の自主的な活動を支援するため、人材育成や友好交流都市との交流事業などを行っていますが、青少年が自発的にボランティア等の社会貢献に参加していることがあっても、関係者以外には知られていない実態もあり、評価は落ち込みました。</p> <p>青少年の社会参加に対して、機会の提供や市民への周知など継続していきます。</p>			

K P I	市ホームページの閲覧件数【件】		
基準数値	最新数値	目標数値	評価
3,431,343[H30]	5,950,307[R2]	4,500,000[R6]	A
<p>市ホームページはパソコン版とスマートフォン版で運用しています。最新の情報を提供しているほか、デザインやコンテンツ表記の統一による画面の改善など、魅力あるホームページ作りに努めています。</p> <p>最新数値は新型コロナウイルス感染症の影響による行政情報の需要増加による影響もあると考えています。</p> <p>今後も、市公式SNSと合わせて情報発信を行うなど、広報活動の充実に努めます。</p>			

基本目標２ A あしたを創る地域産業の活性化を目指して ～雇用の創出と企業活動の支援～

本市のものづくりの技術や商工業の特性を活かし、経営基盤強化や人材育成支援、生活支援の充実を図り、本市を支える経済基盤を拡大します。

《基本施策》

- (1) 基幹産業の支援
- (2) 創業の支援
- (3) 生涯現役で社会貢献できる仕組みの構築及び雇用サポート

➤ 基本目標２の評価

新型コロナウイルス感染症の感染拡大及び長期化は、本市の経済に多大な影響を与えています。本市では、事業活動に影響を受けた中小企業者に対する独自の緊急支援策として、従来の資金繰り支援や給付金事業に加え、新型コロナウイルス感染症対応設備導入等補助金を交付し、ポスト・コロナ社会に対応した設備の導入支援を実施しました。

また、コロナ禍にあっても、未来につながる地域産業の活性化が重要であると考え、創業スタートアップセミナーやざまりん創業塾などを通じ、引き続き創業支援も行ってきました。

基本目標２ではK P Iを三つ設定しており、その達成状況は、目標達成が二つ、最新数値の未把握が一つです。

以上のことを踏まえ、『順調』と評価します。

しかし、同感染症の影響により、K P Iの数値が大幅に変わることも想定されますので、今後の動向に注視する必要があります。

K P I の評価

K P I	製造品出荷額等【百万円】		
基準数値	最新数値	目標数値	評価
244,734[H29]	289,493[R1]	253,115[R6]	A
<p>製造業の生産効率や労働生産性の向上に向けて、多くの支援策を展開してきたほか、令和3年度は、「企業投資促進条例」に基づく事業について、令和7年度までの適用期限の延長と併せ、要件の緩和や、補助率の引上げなどの拡充を行い、県内自治体に比べて充実した内容に改正しました。</p> <p>令和元年の製造品出荷額等は、著しく増加した平成30年度に比べて微減していますが、目標数値を大きく上回っています。</p> <p>一方で、製造品出荷額等は、他の統計数値等と比較して数値結果の反映に遅効性があるといわれることから、今後、新型コロナウイルス感染症による影響を踏まえて注視していく必要があります。</p>			

K P I	年間商品販売額【百万円】		
基準数値	最新数値	目標数値	評価
298,706[H28]	未公表[-]	305,969[R6]	—
<p>年間商品販売額の数値が基準数値以降把握できないため、評価できない状況です。</p> <p>長期化する新型コロナウイルス感染症によって、地域経済活動に様々な影響を受ける中、令和3年度は、プレミアム付商品券事業や同感染症に適応する経営体制を整備するための対策設備等の導入に取り組む支援事業を実施しました。</p> <p>I C T（情報通信技術）の普及、高度化等により、業態、販売方法は多様化し、また、同感染症によって社会経済の構造も大きく変容しつつあることから、市場ニーズや経済情勢に即した商業振興策を打ち出し、市内の経済循環を図っていく必要があります。</p>			

K P I	生きがいを感じている高齢者の割合（高齢者保健福祉計画策定に係る基礎調査）【%】		
基準数値	最新数値	目標数値	評価
76.8[H28]	81.7[R1]	80.0[R6]	A
<p>高齢者が生きがいを感じ、充実した生活を送るためには、良好な健康状態にあることや、家族、友人及び知人との付き合い以外に、社会的な活躍の場が必要です。</p> <p>本市では、高齢者が持つ知識や経験を活かす機会として、ボランティア活動や仕事を通じた、高齢者の生きがいにつながる環境づくりに努めています。</p>			

基本目標３ M みらいを担う世代のすこやかな育成を目指して ～若い世代の結婚・出産・子育て～

子供を安心して楽しみながら産み育てることができる環境づくりを進め、郷土愛を育みながら家族や地域との「絆」を深めていきます。

《基本施策》

- (1) 地域全体で支える子育て支援の充実
- (2) 駅を核とするまちなか子育ての充実
- (3) 出会い・結婚・子育て等のトータルコーディネート推進

➤ 基本目標３の評価

令和２年３月に策定した「第２期座間市子ども・子育て支援事業計画」では基本理念を「すべての人で支え合い、笑顔で育ち・子育てできるまちを目指して」と定め、子ども・子育て支援に関する総合的な計画として施策の充実に努めています。

紙おむつ等の１万円分の育児用品を商品カタログから好みや状況に応じて選べる「ごまりんすくすくギフト」の支給実施など、子育て支援や出生率の増加に繋げるための事業を展開しています。

しかし、本市は現在、保育所等利用待機児童数が県内最多であり、このことは重く受け止める必要があります。本市では市立保育園の民営化を通じて受入体制を強化するなどの対応をしていますが、定員数の増以上に入所希望がある状況ですので、引き続き必要な対策に努めていきます。

基本目標３ではＫＰＩを四つ設定しており、その達成状況は、目標達成が一つ、目標達成に向け前進が二つ、目標達成に向け後退が一つです。

以上のことを踏まえ、『おおむね順調』と評価します。

➤ ＫＰＩの評価

ＫＰＩ	合計特殊出生率【％】		
基準数値	最新数値	目標数値	評価
1.30[H29]	1.17[R2]	1.44[R6]	C
我が国は、人口減少や少子化の進行という問題に直面しているため、国を挙げた対策を講じているところです。			
これらを踏まえて自治体独自の取組を実施するとともに、長期的な課題として、引き続き少子化対策を総合的に進めます。			

K P I	子育てしやすいまちになっていると思う市民の割合（市民アンケート）【%】		
基準数値	最新数値	目標数値	評価
31.7[H30]	32.6[R2]	37.0[R6]	B
<p>本市ではこれまでも、子ども・子育て施策の充実に取り組んできました。令和2年度には、国の特別定額給付金の基準日を過ぎて生まれた子どもに対して「赤ちゃん応援すくすく給付金」を給付しました。</p> <p>市民は、子育てがしやすいまちという視点を重視しているため、今後も子育て環境の整備を推進するとともに、本市に取り組んでいる内容や支援制度の周知に努めます。</p>			

K P I	駅周辺地区（小田急相模原駅、相武台前駅、座間駅、さがみ野駅）の人口【人】		
基準数値	最新数値	目標数値	評価
53,420[R1]	52,526[R3]	51,000[R6]	B
<p>本市は、現在、駅周辺の再開発事業を行っていないため、大幅な人口増加は見込んでいませんが、全体としては微増しています。しかし、駅周辺人口の最新値は減少傾向にあり、ポスト・コロナ社会における多様な働き方により、求められる住環境に変化があったことが一つの要因と考えられます。今後はその動向を注視していく必要があります。</p>			

K P I	市主催の婚活イベントへの参加者数（延べ人数）【人】		
基準数値	最新数値	目標数値	評価
408[R1]	462[R3]	758[R6]	B
<p>婚活イベントは、新型コロナウイルス感染症の影響により、規模の縮小や中止を余儀なくされました。</p> <p>今後、本市が出会いの場やコミュニケーションのための機会を提供することについては、その手法や内容を工夫していく必要があります。</p>			

基本目標 4 A あんぜん・安心な地域づくりを目指して ～時代に合った地域づくり・地域間の連携～

「安全」「安心」な本市のイメージを高めるために、医療体制や危機管理体制の充実を図り、人材という知恵と資産を守っていきます。

《基本施策》

- (1) 救急医療体制の充実
- (2) 危機に備えるための取組強化・防災組織の充実強化
- (3) 健康の増進と健康寿命の延伸
- (4) 次世代への資産継承

➤ 基本目標 4 の評価

安全・安心な地域づくりは、自治体共通のテーマとして危機管理や医療体制をはじめとするそれぞれの施策において課題を捉え、対応しているところです。

さらに、ポスト・コロナ社会における災害対応など、安全、安心に関する新たな課題も浮かび上がりました。このように、社会経済情勢や生活環境などの変化に伴い、安全、安心に求められる内容も変化しますので、柔軟に対応していく必要があります。

基本目標 4 では K P I を三つ設定しており、その達成状況は、目標達成に向け後退が三つです。

以上のことを踏まえ、『遅れている』と評価します。

➤ K P I の評価

K P I	医療サービスを必要なときに受けられるようになってきていると思う市民の割合（市民アンケート）【%】		
基準数値	最新数値	目標数値	評価
59.9[H30]	59.1[R2]	60.2[R6]	C
<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、市民の医療分野に対する関心が非常に高まりました。</p> <p>医療サービスは、健康維持のための日常的な検査や通院から緊急時の救急医療まで、幅広い体制の下で提供されています。</p> <p>本市ではこれまで救急医療体制の整備を進めてきましたが、今後も救急医療体制の充実により、市内の救急搬送率を向上させ、安定的に医療サービスを提供できる体制の整備に努めます。</p>			

K P I	安全、快適な道路になってきていると思う市民の割合（市民アンケート）【%】		
基準数値	最新数値	目標数値	評価
30.0[H30]	29.0[R2]	35.6[R6]	C
<p>本市は、道路の新設、改良、維持補修を着実に推進してきましたが、大型商業施設等の開業に伴う恒常的な交通渋滞が発生しており、最新数値は基準値を下回っています。</p> <p>今後も、産業振興や災害時に果たすべき役割、利便性向上などの視点を持ち、国、県や関係機関と連携しながら、安全で快適な道路整備に努めます。</p>			

K P I	生活習慣病による死亡割合【%】		
基準数値	最新数値	目標数値	評価
54.6[H30]	56.1[H31]	51.5[R6]	C
<p>生活習慣病を引き起こす原因は様々ですが、最も有効な予防策は、一人一人が意識を変え、日々の生活に活かすことと考えます。</p> <p>本市では、引き続き生活習慣病予防策を重点とした検診体制の充実及び知識の普及啓発に努めます。</p>			

付属資料

「第2期座間市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推進に当たって、各施策の状況、取り組みべき課題について、次の組織等において点検、評価及び効果検証を実施しています。

➤ 有識者会議：「座間市総合戦略推進懇話会」

「座間市総合戦略推進懇話会」は、地方創生を効率的かつ効果的に推進していくためには、様々な御意見をいただくことが重要であることから、産業界や大学、金融機関、労働団体等で構成する推進組織として設置しました。

・令和3年度 開催概要

日時：令和4年3月4日 10時～10時45分

委員：

	氏名	肩書
委員長	長本 享一	座間市商工会会長
	小林 智之	座間市社会福祉協議会常務理事
	浅野 俊一郎	株式会社横浜銀行座間支店支店長
	石井 幸介	神奈川県県央地域県政総合センター企画調整部長
副委員長	大下 聖治	和泉短期大学児童福祉学科副学長
	中尾 隆徳	神奈川県連合会県中央地域連合事務局長

内容：評価報告書の作成に当たり、委員の皆様から頂いた主な御意見は次のとおりです。

- ・人口増加の原因分析を行い、移住・定住の促進に繋げていただきたい。
- ・県央地域で企業移転が多くなっているのので、地域雇用の確保のために企業誘致等の対策が必要。
- ・待機児童対策における保育士の確保について、地元就職しやすい傾向から、座間市民が保育士を目指したいと思える環境整備が重要。
- ・少し歩けば市境に当たるような座間市の特性から、広域的な視点での評価や判断ができると良くなると考える。

➤ 内部推進体制：「座間市総合計画等に関する検討委員会」

「座間市総合計画等に関する検討委員会」は、将来の人口減少問題に対し、庁内全体での意識共有や横断的・戦略的な事業を展開するため、副市長を委員長とする検討組織として設置しました。